

浜坂病院 「地域医療夏期セミナー 2023inひょうご」

【実施について】8月9日(水)～10日(木) 神戸大学大学院地域医療教育学部門及び兵庫県地域医療支援センター主催で、兵庫県養成医学生等を対象にした県下7ヶ所の医療機関で実施される標記セミナーに一つの医療機関として通算9回目となる受入れに協力されました。参加学生は神戸大学、兵庫医科大学、自治医科大学、岡山大学、鳥取大学の医学生の計13名です。このセミナーを通して、本町に興味を持っていただき、将来、浜坂病院を赴任先として選んでいただけることに期待します。

風力発電関連新情報はありませんでした。



実施が急がれる急傾斜地対策

集落を訪ねさせていただいての座談会で、住民の方から、「地域要望としてきた急傾斜地対策の実施の見通しが立たない」とのお話がありました。

そこで、地元議員のお世話による新温泉町土木事務所の現地視察に同行させていただきました。今までの「実施基準に合わない」との回答が、地域住民としては納得しがたい内容であることも分かり、人命と先祖代々の財産保全に関わる重要案件として、地域の危機感が県に伝わったと感じました直接伝えることの重要性を再認識しました。



『座談会』ありがとうございました！

有志議員が地域に出向く『座談会』では、「浜坂認定こども園整備を何故推進しないのか」との質問もあり、それぞれの議員が思いを伝えさせていただきました。多くの方々には、進まない現状についてご理解いただけたと思います。

今後は町の皆様に現状をご理解頂き、早期のこども園整備に向けて『災害時の安全対策』を考えた方針修正を期待するばかりです。

浜坂駅前周辺活性化

平成15年、当時の浜坂町が策定した浜坂中心市街地活性化基本計画は活かされることなく、年月だけが経過したように思えます。

その間、駅前には『まち歩き案内書』や、今春には『味原川文化伝承館』が開設されました。

現在、兵庫県の事業として整備が進められている県道浜坂駅港湾線整備に付帯する形での整備が求められている浜坂駅前広場の整備とそれにつながる周辺地域の活性化策を策定し実施していくことが求められています。

令和3年3月議会で提案された予算に、浜坂駅前広場の整備と周辺地域の活性化策を策定するためとして、「浜坂駅周辺活性化方策検討業務」の委託料700万円が計上されました。

私は、コンサルタント会社への「丸投げ」にならないよう、事業の進め方に対する付帯決議を発議させていただいた上で賛成し、可決の運びとなりました。しかし、昨年3月議会で、その予算は未執行のまま全額が減額修正され、活性化策の検討は進みませんでした。

町は、「複数課の職員で構成するプロジェクトチームで検討を進めてきたので、本年度、地域の方々に説明し、賛同を得る予定」と説明されています。令和3年度に予算計上した事業の実施ができなかった理由が、『担当課と地域の皆さんとの意見が折り合わなかったこと』だと説明されてきた経過を経て、その延長線において、町から提案された事業内容に対して、地域の方々が快く賛同されるかどうかと心配しています。



地域活性化は地域の方々の願いを結集して、地域住民が主体的に取り組めてこそ、継続していけるものだと思います。

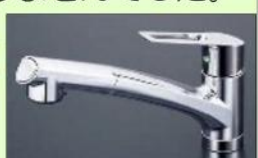
むだばなし

先日、事務所のスタッフから、1階にある台所の水栓が全開になって、水が出ていると電話があり、即座に止めてもらいました。

結局、流し台の上にある水切り棚が、吊フックの破損で水栓のレバーの上に落下し、全開になったものでした。

20年以上前、ある住宅でシステムキッチンに上水道の他、井戸水用のシングルレバー水栓を取り付ける設計をしました。その際、キッチン付属の水栓は、レバーを下げて止めるタイプ、追加した水栓は、上げて止めるタイプだったため、操作がやり難いと苦情を受けたことがありました。そのことから、水栓のデザインは気にしても、上げ止水・下げ止水を気にすることもなく、選定していたことを見直しました。今回、下げ止水の水栓であれば、棚が落ちてきても、水栓が全開になることはありませんでした。

調べてみると1995年の阪神・淡路大震災以前は、2種類が混在し、それ以降は、下げ止水に統一されたことが分かりました。リスク回避の大切さが理解できます。



町政報告 2023年盛夏第23号

とち 柝の実 通信

(ただっちゃん つうしん)



新温泉町議会議員

かわごえ

河越ただし

住民の幸せ追求が町政のつとめ

発行：河越 忠志

〒669-6801 新温泉町井土 978-1 TEL0796-92-2428(事) 92-2550(自宅)

E-mail: take2428co@coffee.ocn.ne.jp https://www.facebook.com/tadashi.kawagoe.1



令和5年6月議会（認定こども園整備提案なし）

残暑お見舞い申し上げます。

久しぶりに賑やかなお盆を迎えて居られる方も多いのではないのでしょうか。まだまだ猛暑が続きます。くれぐれもご自愛くださいますようお願い申し上げます。

6月議会は、3月の予算議会、9月の決算議会とは異なり、時間的に余裕をもって重要案件の審議ができる議会だと感じています。

このところ、様々な場面で、『浜坂地域の認定こども園整備』に関して、議会（議員）に対しての厳しいご意見やご批判を受けて胸を痛めています。

何とかして、早期のこども園整備を実現したいと願うのですが、私たち議員には予算の提案権がありません。皆様からの声を元に、議会の場で意見を述べさせていただくことにより、できる限り多くの町民の皆様にとって望ましい提案を導くために精一杯の努力を続けています。

6月議会での私の一般質問では、①浜坂駅前周辺活性化の方策、②障がい者グループホーム設置に向けた姿勢、③温泉町が関わった公図錯誤の修正に向けた姿勢、④リフレッシュパークゆむらの運営姿勢、⑤浜坂認定こども園整備に関わる事業認識について取り上げました。一般質問の詳細については、町のホームページで動画配信されていますので、是非ご覧ください。①～⑤は、事業が停滞していたり、町民の皆様から不満の声が届いている事案です。課題解決に向けての一層の行政努力と住民の皆様との対話が求められます。



美方郡産但馬牛（飼育システム）

7月6日、「人と牛が共生する美方地域の伝統的但馬牛（うし）飼育システム」が世界農業遺産として認定されました。世界農業遺産認定は兵庫県内では初めて、畜産部門では日本国内初の快挙です。

棚田の草や稲わらを餌とし、ふんを堆肥として活用するといった持続可能な地域資源の循環利用や、「牛籍簿」を整備して100年以上に渡り血統管理に取り組んでこられた先人と畜産農家の皆様のご努力が世界から認められたことが本当に嬉しく思います。



牛の農耕の様子

浜坂地域の認定こども園整備を進めるために！

現在地周辺での こども園整備実現にむけての課題

①現在地の防災上の課題

**町）味原川の大改修により、安全性は向上
河越）10年に1度の雨量対応整備、
かつ下流水門には排水ポンプ未整備**

味原川改修は、10年に1度の最大降雨量対応にとどまっています。近年の異常気象による豪雨への安全確保はできていません。平成29年9月の台風の際は、周辺道路が冠水しました。現状の豪雨時の安全対策は必須です。

②現状に則した防災対策

**町）園の孤立を避ける方策は先人への批判
河越）各地での災害に学び役立てることが大事**

昭和53年当時の最善策として整備された計画から45年経過した今、地球温暖化による豪雨災害が各地で発生しています。現在の状況に応じた安全対策を講じて、大切なこども達や職員の方々の命を守ることは行政の責任です。

③新築と統廃合の明確な説明が必要

**町）園の新築と統合は別問題
河越）園の新築は統合園を整備すること**

第一期整備検討委員会、第二期整備検討委員会とも、改築（新築）整備することは、即ち、浜坂・大庭統合園設置につながると暗黙了解されていたことが、議事録からも読み取れます。

④非常時対応の保育環境が必要

**町）非常時になる前に避難することで対応
河越）避難は大事、その後の保育継続も大事**

災害時においても、私たちの日常生活に必要不可欠な医療機関、高齢者介護施設、学校、警察、消防や行政などを維持し、支えてくださる方々が安心して利用できるような災害に強い、安心安全なこども園が必要です。

現在地推進派ながら過去の議案に反対してきました

浜坂認定こども園にかかる予算案・補正予算案の内、役場東側と現在地周辺との比較検討の費用と、令和4年8月の浜坂認定こども園の耐震診断の費用を除いては、反対の立場を取らせていただきました。その理由は、上記の通りです。

多くの町民が望む現在地に、わが町の未来を担うこども達が安心して過ごせるような、災害に強いこども園を整備したいと願っています。各地で激甚化する災害の現状から学び、大切なこども達の命を守るために生かす必要性を感じています。

現在地活用推進(再)

理由① 現現在地周辺での整備を望んでおられる方々が大勢おられ、明確にその意思表示をされてきたこと。そういった思いを、町の地域づくりに活かしていく必要を感じることに。

理由② 過去に実施されたアンケートで、既存施設が概ね受け入れられていると思われること。

理由③ 施設過多と言われている中で、現こども園の可能な部分の再生とリフォーム＋新增築でSDGsの推進

理由④ 浸水によるこども園孤立の危険解消に、比較的迅速な対応が可能であること。

理由⑤ 令和7年度までの有利な地方債が活用できること。（過疎債の枠を残すために。）

理由⑥ 今は、整備費用のムダを抑えて、こども・若者への支援予算を確保すべきだと思えること。

今からでもできること

検討① 防災上の配慮について多くの方に、理解してもらうこと。

検討② 保護者や当事者の保育環境整備についての声を改めて、客観的に調査すること。

検討③ 新築整備を求める声が多いのであれば、統合園整備に向けた議論を加速させること。

検討④ 現在地での整備を求める声が多ければ、既存活用と公園整備など夢のある整備を検討すること。

七釜温泉の魅力再発見・白さぎの湯（足湯）

今年3月15日（水）有志議員による小地域座談会を七釜ふれあいセンターにて開催させていただきました。

その席で、「間もなく足湯が完成する」と教えていただきました。残念ながら、4月20日に完成した足湯『白さぎの湯』のお披露目には参加させていただけませんでした。6月議会の一般質問を終えた10日に思い立って訪ねさせていただきました。いざ行ってみると、当初想定していた場所には車では行けそうになく、引き返して案内看板を確認したのですが、足湯の位置の確認ができず、あきらめて一旦帰宅しました。

翌日、足湯の所在地番をしっかりと確認し、当初思っていた場所にあることを確信しました。そこで、近くの空き地に車を止めて歩いて訪ねてみました。実際に訪ねてみると、当初車は通れないと思っていた道は、何とか通れる道幅で、昨日引き返した地点から少しだけ歩いた先の民家の向こう隣に足湯らしき建物が見えました。ほっとすると同時に、「分かりやすい案内標識があったらいいな」と感じました。

足湯『白さぎの湯』は、昔ながらの懐かしい自然が感じられる環境にあり、傍を流れる段川に沿った（軽自動車なら通れそうな）道が、ずっと続いている雰囲気の魅力を感じて、徒歩で道の奥を目指してみることにしました。

段川の両側には、程よく平坦な湿地が広がり、見渡す限りの自然が感じられました。以前は圃場として使われていたのだらうと思いましたが、今はほぼ自然の湿地になっています。近くでは鹿の鳴き声も聞かれました。こういった湿地を上手く活用して自然公園化できれば、地域の魅力が増すのではないかと思います。足湯の名称は『白さぎ』

ですが、コウノトリが生息している情景が思い浮かびました。歩いてみると、段川に沿った道は、足湯から私の足で1850歩（約1.3km）のところにある湿地に続き、その先は山へとつながっていました。帰り道でも楽しい夢がふくらみました。



この湿地を観光資源として有効に活用し、七釜温泉の財産として、多くの人が癒しの場の散策を楽しめ、それが雇用や地域の活性化に繋がって欲しいと思いました。まさしく長期滞在型湯治場が思い浮かびました。

